



# 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月9日

上場取引所 東

上場会社名 神姫バス株式会社

コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 長尾 真

問合せ先責任者 (役職名) 企画部長

(氏名) 永井 勝浩

TEL 079-223-1243

四半期報告書提出予定日 平成25年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	10,205	3.9	240	△1.1	311	5.3	130	△39.5
25年3月期第1四半期	9,824	0.8	243	△19.5	295	△14.7	216	84.7

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 175百万円 (25.6%) 25年3月期第1四半期 139百万円 (25.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	4.34	—
25年3月期第1四半期	7.17	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	48,114	33,033	68.6	1,095.02
25年3月期	47,819	32,934	68.8	1,091.67

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 33,014百万円 25年3月期 32,915百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	2.50	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,700	3.8	400	△34.5	430	△36.7	210	△37.7	6.96
通期	41,800	3.3	820	△19.3	920	△20.8	1,370	△5.6	45.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期1Q	30,860,000 株	25年3月期	30,860,000 株
26年3月期1Q	710,494 株	25年3月期	708,107 株
26年3月期1Q	30,149,751 株	25年3月期1Q	30,153,953 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の経済政策の効果により株価が急速に回復するなど景気回復への期待感が高まりつつありますが、海外経済の減速が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような情勢のなかで、当社グループは、企業価値増大に向け、バス事業を基盤としながら、レジャーサービス業での新規出店等を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比380百万円(3.9%)増の10,205百万円となりましたが、営業利益は前年同期比2百万円

(△1.1%)減の240百万円となりました。経常利益につきましては貸倒引当金戻入益の計上等により前年同期比15百万円(5.3%)増の311百万円となりました。また、四半期純利益は、固定資産売却益や負ののれん発生益等を計上した前年同期と比べ85百万円(△39.5%)減の130百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。なお、売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

なお、前第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### ① 自動車運送

乗合バス部門は、定期券の販売が好調に推移したことに加え、公営バスからの受託系統が増加したこと等により前年同期に比べ増収となりました。タクシー部門は、稼働率の低下により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比76百万円(1.7%)増の4,506百万円、営業損益は人件費及び燃料費の増加等により前年同期に比べ44百万円(△44.1%)悪化し、144百万円の営業損失となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門は、車両部品及びタイヤの販売が増加したことに加え、自動車販売が好調に推移したことにより増収となりました。また、整備部門は、中古バスの改造等があった前年同期に比べ若干の減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比89百万円(5.8%)増の1,650百万円、営業利益は9百万円(12.2%)増の84百万円となりました。

#### ③ 業務受託

車両運行管理部門は、既存顧客において一部解約はありましたものの、新規顧客の獲得等により増収となりました。経営受託部門は、指定管理施設の減少により減収となりました。介護部門は、サービス付き高齢者向け住宅「青山の郷」及び併設するデイサービス訪問介護施設「ケアサービス神姫あおやま」の稼働増により増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比13百万円(△1.7%)減の767百万円となりましたが、営業利益は介護部門の収支が改善したこと等により前年同期比26百万円(94.9%)増の54百万円となりました。

#### ④ 不動産

販売部門は、分譲地販売区画数は前年同期並に推移したものの、建物販売戸数が増加したことにより、また、建設部門は、大口工事の進捗に伴う売上を計上したことにより増収となりました。賃貸部門は、既存賃貸先の賃料改定等により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比180百万円(25.2%)増の895百万円、営業利益は平成23年12月に取得した収益物件の初期費用が発生した前年同期に比べ77百万円(32.1%)増の320百万円となりました。

#### ⑤ レジャーサービス

飲食部門は、カフェ事業においてJR姫路駅前ビルの再開発の影響により集客が増えたことに加え、FC事業においてサルヴァトーレ・クオモ・アンド・パールを新規出店したことにより、前年同期に比べ増収となりました。レンタル部門・T S U T A Y Aは、3店舗共に物販収入は前年同期並に推移したものの、レンタル収入は映像・音楽共に貸出枚数が低調に推移し、減収となりました。また、遊技場部門は、たつの店のリニューアルや1円パチンコの拡大など、増客施策を実施してまいりましたが、遊技者人口の減少や近隣店との競合により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比8百万円(△0.4%)減の1,921百万円、営業損益は飲食部門における新規出店費用の発生等により営業損失36百万円(前年同期は41百万円の営業利益)となりました。

#### ⑥ 旅行貸切

旅行部門は、手配旅行は前年同期並で推移しましたが、「クルーズツアー」「東京ディズニーツアー」等の募集型企画旅行が好調に推移したことにより増収となりました。貸切バス部門は、運転士不足等による稼働減により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比10百万円（△1.3%）減の824百万円となりました。営業損益は人件費をはじめとする経費の削減により前年同期に比べ5百万円（22.6%）改善しましたが、20百万円の営業損失となりました。

#### ⑦ その他

コンビニエンス部門は、前連結会計年度に引き続きファミリーマート3号店を出店し、また、化粧品販売部門は、直営を含む2店舗を出店したことにより増収となりました。清掃・警備部門は、車両・建物清掃の契約が減少したこと等により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比79百万円（24.4%）増の404百万円となりましたが、営業損益は、コンビニエンス部門の店舗開設費用の発生等により前年同期に比べ9百万円（△75.7%）悪化し、22百万円の営業損失となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ294百万円増加し、48,114百万円となりました。増減の主なもの、現金及び預金の増加1,665百万円、受取手形及び売掛金の減少228百万円、自動車運送業における補助金未収の減少909百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ196百万円増加し、15,081百万円となりました。増減の主なもの、賞与引当金の増加673百万円、定期券等の前受金の増加447百万円、未払金の減少457百万円、未払法人税等の減少251百万円等であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加55百万円、その他有価証券評価差額金の増加44百万円等により、前連結会計年度末に比べ98百万円増加の33,033百万円となり、自己資本比率は68.6%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年5月15日に公表した予想を変更しておりません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,157	8,822
受取手形及び売掛金	2,020	1,792
未収運賃	738	623
有価証券	90	40
商品及び製品	425	414
仕掛品	43	57
分譲土地建物	822	739
原材料及び貯蔵品	91	77
その他	1,758	858
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	13,136	13,414
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	23,763	23,829
減価償却累計額	△15,838	△15,964
建物及び構築物（純額）	7,924	7,864
機械装置及び工具器具備品	2,699	2,728
減価償却累計額	△2,226	△2,219
機械装置及び工具器具備品（純額）	473	509
車両運搬具	12,610	12,452
減価償却累計額	△10,677	△10,636
車両運搬具（純額）	1,933	1,815
土地	16,408	16,408
リース資産	3,822	3,759
減価償却累計額	△1,957	△2,014
リース資産（純額）	1,864	1,745
建設仮勘定	31	189
有形固定資産合計	28,636	28,533
無形固定資産		
のれん	37	34
その他	291	289
無形固定資産合計	329	323
投資その他の資産		
投資有価証券	3,366	3,526
その他	2,733	2,681
貸倒引当金	△383	△365
投資その他の資産合計	5,717	5,842
固定資産合計	34,682	34,699
資産合計	47,819	48,114

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,059	1,013
短期借入金	309	309
1年内返済予定の長期借入金	681	637
リース債務	707	673
未払金	3,120	2,663
未払法人税等	456	205
事故補償引当金	10	10
賞与引当金	885	1,558
過年度雑収計上旅行券引当金	15	15
その他	1,923	2,456
流動負債合計	9,168	9,542
固定負債		
長期借入金	1,035	952
リース債務	1,240	1,147
退職給付引当金	596	597
役員退職慰労引当金	114	108
負ののれん	2	1
その他	2,728	2,731
固定負債合計	5,716	5,538
負債合計	14,885	15,081
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	26,880	26,935
自己株式	△419	△421
株主資本合計	31,835	31,889
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,080	1,124
その他の包括利益累計額合計	1,080	1,124
少数株主持分	18	18
純資産合計	32,934	33,033
負債純資産合計	47,819	48,114

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	9,824	10,205
売上原価	7,347	7,670
売上総利益	2,477	2,534
販売費及び一般管理費	2,234	2,294
営業利益	243	240
営業外収益		
受取利息	4	5
受取配当金	22	23
持分法による投資利益	13	11
その他	28	46
営業外収益合計	69	87
営業外費用		
支払利息	6	4
固定資産除却損	5	5
その他	5	7
営業外費用合計	17	17
経常利益	295	311
特別利益		
運行補助金	19	19
車両等購入補助金	37	—
固定資産売却益	19	—
負ののれん発生益	52	—
特別利益合計	128	19
特別損失		
固定資産圧縮損	32	—
貸倒引当金繰入額	36	—
特別損失合計	69	—
税金等調整前四半期純利益	355	330
法人税等	138	199
少数株主損益調整前四半期純利益	216	130
少数株主利益	0	0
四半期純利益	216	130

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	216	130
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△75	43
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	△76	44
四半期包括利益	139	175
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	139	175
少数株主に係る四半期包括利益	0	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	4,409	1,080	772	614	1,929	818	9,624	199	9,824
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	20	479	9	100	—	17	627	125	753
計	4,429	1,560	781	715	1,929	835	10,252	325	10,578
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△100	75	28	242	41	△26	261	△12	248

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	261
「その他」の区分の利益	△12
セグメント間取引消去	△5
四半期連結損益計算書の営業利益	243

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「車両物販・整備」セグメントにおいて、連結子会社である神姫産業株式会社の株式を追加取得したことにより負ののれん発生益を計上しております。

当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間において52百万円です。

なお、この負ののれん発生益は特定の報告セグメントに係るものではないため、全社の利益として認識しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	4,488	1,164	759	787	1,921	804	9,926	279	10,205
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	18	485	8	107	—	20	640	125	766
計	4,506	1,650	767	895	1,921	824	10,567	404	10,972
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△144	84	54	320	△36	△20	259	△22	237

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	259
「その他」の区分の利益	△22
セグメント間取引消去	3
四半期連結損益計算書の営業利益	240

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結会計期間において、「レジャーサービス」に含めていた旅行業、及び「自動車運送」に含めていた一般貸切（貸切バス事業）を中間持株会社によって経営管理する体制に移行する事業再編を行っております。この事業再編に伴い、前第2四半期連結会計期間より、新たに「旅行貸切」を報告セグメントの区分に追加しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

なお、変更後の各報告セグメントの主な事業内容は次の通りです。

自動車運送……………一般乗合・乗用・特定旅客運送、郵便物の運送、一般乗合受託、索道業  
 車両物販・整備……………自動車部品・タイヤの販売、自動車の修理、保険代理  
 業務受託……………自動車の運転・保守管理、経営受託、介護  
 不動産……………土地造成、建物の建築、土地・建物の売買、賃貸、仲介及び管理  
 レジャーサービス……………高速道売店等における物販を含む飲食業、遊技場、レンタル業  
 旅行貸切……………旅行業、一般貸切（貸切バス事業）